



# 慶應義塾大学出版会

## 新刊案内

2024

3月

〒108-8346 東京都港区三田 2-19-30

Tel: 03-3451-6926 / Fax: 03-3451-3124

<http://www.keio-up.co.jp/>



印のついている本には特にご注目下さい。平積みいただければ幸いです。



## 犬と会話する方法



動物行動学が教える人と犬の幸せ

パトリシア・マコーネル (作家、動物行動学者、ドッグ・トレーナー) [著]

村井理子 (エッセイスト、翻訳家) [訳]

👉 ココに注目！

- ・犬と人が幸せに暮らすための心得やコミュニケーション術。
- ・出会いから喪失まで寄り添う、愛に溢れたエッセイ。

問題を抱えた何千頭もの犬と向き合ってきたドクトレーナーで、動物行動学者でもある著者が、犬と幸せに生きるための心得と方法を伝授。行動学と経験に基づき、人と犬とのより良い関係を築く方法をユーモラスに描く犬愛溢れるエッセイ。翻訳は犬の愛犬家である村井理子氏。

税込予価 **2,640 円** 四六判並製 / 352 頁

ISBN 978-4-7664-2941-1 C0045

対象：犬好きの一般読者・村井理子さんの読者 / 動物行動学に関心のある読者

部数：★★★★★★

配本予定：3 月上旬

📖 菊水健史・永澤美保『ヒト、イヌと語る』(東京大学出版会)  
アレクサンドラ・ホロウィッツ『犬から見た世界』(白揚社)



書影イメージ

### 【営業部からのおすすめコメント】

原著は、2003 年にアメリカで刊行されて以来 13 ヶ国語以上に翻訳され、その学術的な裏付けとユーモラスな筆致で、世界中の愛犬家から支持を得てきたロングセラーです。既に読者の方より日本での刊行を心待ちにしていたというお声を頂き、翻訳をご担当頂いた村井さんは SNS 上で「最後の三章は涙なしでは翻訳できず。すごくいい本だった。」とコメントされています。こちらの刊行記念として、動物に纏わる書籍を集めたフェアのご案内を同封しております。併せてご検討下さい！ (吉川)

※本書は、2024 年 2 月号にて、3 月イチ押し新刊としてご案内を差し上げております。注文が重複した場合には「多い方の発注数」にて対応させていただきます。

部数は、★で約 500 部を表します。



または



# 民主主義は甦るのか？

平積み

## 歴史から考えるポピュリズム

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）・板橋拓己（東京大学大学院法学政治学研究科教授）【編著】

### ココに注目！

- 歴史は何度も繰り返す。ポピュリズムは民主主義をどのように崩壊させていくのか。
- 衰退した民主主義はどうすれば再生できるのか。
- 現代の難問を解く上での歴史からのヒントを与える一冊。

いま世界では、ポピュリズムの潮流が政治や社会、そして経済にも影響を及ぼしている。そもそもポピュリズムとはどのような理由によって浸透していくのか。そのために民主主義はこのまま衰退していくのか。ヨーロッパや日本の歴史的視点からポピュリズムという現象を考えなおし、現在の状況と照らし合わせながら問題提起する一冊。

税込予価 **2,200 円** 四六判上製／256 頁

ISBN 978-4-7664-2946-6 C3031

対象：国際情勢や現代史に関心のある一般読者

部数：★★★★★

配本予定：3 月中旬

【類書】 ヤン＝ヴェルナー・ミュラー著「ポピュリズムとは何か」  
(岩波書店)



書影イメージ

### 【営業部からのおすすめコメント】

現代世界では民主主義の衰退が語られ、ポピュリズムの台頭による世論の二極化やイデオロギー対立の深刻化が論じられています。また、いまさにロシアによるウクライナへの軍事侵攻が行われ、第三次世界大戦勃発の可能性すら指摘されています。同様の危機を経験した 1930 年代ヨーロッパや日本を中心とした動きと現代世界のできごとを比較検証することは、どのような共通点や現代に特有の新たな問題があるのかを明らかにすることにつながるのでは、という問題意識からスタートした本作。混迷する現代を考えるための手引きとして、ぜひ積極的な展開をご検討ください。（福本）

### 【主要目次】

|        |                                                     |         |
|--------|-----------------------------------------------------|---------|
| 序      | 民主主義はいかに衰退するか                                       | (細谷雄一)  |
| 第一部    | 民主主義の黄昏——戦間期ヨーロッパの経験                                |         |
| 第 1 章  | 権威主義が台頭した戦間期ヨーロッパ                                   | (板橋拓己)  |
| 第 2 章  | ドイツの経験——ナチズムとポピュリズム                                 | (長野晃)   |
| 第 3 章  | オーストリアの経験——「非」ポピュリスムのファシズム                          | (高橋義彦)  |
| 第 4 章  | オランダの経験——戦間期オランダにおける民主主義の展開                         | (水島治郎)  |
| 第 5 章  | イギリスの経験——「議会主義への懐疑」へ                                | (山本みずき) |
| 第二部    | 崩壊する民主主義——戦間期日本からの教訓                                |         |
| 第 6 章  | 戦間期の思潮と政党——生命・緊張・国体                                 | (五百旗頭薫) |
| 第 7 章  | 戦前日本の「民主化途上体制」の崩壊                                   | (竹中治堅)  |
| 第 8 章  | 帝国期日本の教訓から——かつて日本でも民主的後退があった                        | (村井良太)  |
| 第三部    | 混迷する現代の民主主義とその未来                                    |         |
| 第 9 章  | ブレグジットがもたらす混迷——記憶・忘却・無頓着                            | (藤山一樹)  |
| 第 10 章 | プーチンと現代ロシアのポピュリズム——個人支配体制とその問題点                     | (大串敦)   |
| 第 11 章 | ノスタルジーとロマン主義——ポピュリズムとアイデンティティ・ポリティクス (ジョン・ニルソン＝ライト) |         |
| 終章     | 民主主義を取り戻すことは可能なのか？                                  | (細谷雄一)  |
| (付録)   | ポピュリズムをめぐる考察                                        | (板橋拓己)  |

※本書は、2024 年 2 月号にて、3 月イチ押し新刊としてご案内を差し上げております。注文が重複した場合には「多い方の発注数」にて対応させていただきます。

部数の★は、1 つで約 500 部を表します。



# ネクスト・インテリジェンス

北岡元 (前エストニア日本国大使館特命全権大使) [著]

## 🔍 ココに注目!

- ・高度情報化時代に適應できるインテリジェンス組織の条件・特徴を考察。
- ・各国政府・企業の取組みを紹介、「利益を実現する知識」を創造する新たなモデルを提言。
- ・世界各国の取組みを紹介し、これからのインテリジェンス創造モデルを模索する。

なぜ伝統的なインテリジェンス組織は機能不全に陥ったのか? 高度情報化時代に「利益を実現する知識 (= インテリジェンス)」を生み出し続けるには、何をすればよいのか? 各国政府・企業で採用される代表的モデルと事例を紹介しつつ、新たなインテリジェンス創造モデルを提言する。

税込予価 **2,420 円** 四六判上製 / 224 頁

ISBN 978-4-7664-2953-4 C0031

対象: 一般 (外交・諜報・安全保障に関心のある層)

部数: ★★★★★

配本予定: 3 月上旬

 上田篤盛「戦略的インテリジェンス入門」(並木書房)

## 【主要目次】

プロローグ 利益をいかに実現するか

### 第一部 インテリジェンス・サイクルの誕生

第 1 章 インテリジェンスとは何か?

第 2 章 インテリジェンス・サイクルとは何か?

第 3 章 インテリジェンス・サイクルはなぜ生まれたのか?

### 第二部 インテリジェンス・サイクルの機能不全

第 4 章 「情報化時代」とは何か?

第 5 章 情報のパラドクスの出現

第 6 章 機能不全に陥ったインテリジェンス・サイクル

### 第三部 情報化時代を乗り切る、新たなインテリジェンス・モデル

第 7 章 新モデルに求められる条件

第 8 章 アクター統合促進型モデル

第 9 章 ターゲット・セントリック・アプローチ

第 10 章 センス・メイキング・モデル

第 11 章 デュアル・オペレーティング・システム

第 12 章 利益中心型モデル

エピローグ 情報化時代の壁を乗り越える

著者既刊

## インテリジェンス入門 [第 2 版]

利益を実現する知識の創造

北岡元著

定価 **2,640 円** 四六判上製 / 296 頁 ISBN 978-4-7664-1682-4 2009 年 10 月

関連既刊

## なぜ、インテリジェンスは必要なのか

小林良樹著

定価 **2,970 円** 四六判上製 / 384 頁 ISBN 978-4-7664-2752-3 2021 年 6 月

## インテリジェンス

機密から政策へ

マーク・M・ローエンタール著 / 茂田宏監訳

定価 **4,620 円** A5 判上製 / 428 頁 ISBN 978-4-7664-1826-2 2011 年 5 月



# 福澤諭吉 教育論

独立して孤立せず

福澤諭吉 [著] / 山内慶太 (慶應義塾常任理事、慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科教授)・西川俊作 (慶應義塾大学名誉教授、2010 年逝去) [編]

🔍 ココに注目！

- ・現代にも通じる福澤諭吉の教育論を集成！
- ・『福澤諭吉著作集』第 5 巻を増補改訂した決定版。
- ・慶應義塾のモラルコード「修身要領」も収載。

教育者・福澤諭吉はどのような理念に基づき慶應義塾を創立し、教育事業を実践していったのか。現代人にも示唆に富む、その教育論を集成。慶應義塾のモラルコードである「修身要領」も収載した決定版。

税込予価 **2,530 円** 四六判並製 / 520 頁

ISBN 978-4-7664-2943-5 C3010

対象：一般 (福澤諭吉・慶應義塾に関心のある層)

部数：★★★★★★

配本予定：3 月上旬

関連既刊

## 新版 福澤諭吉 家庭教育のすすめ

渡辺徳三郎著 / 山内慶太編

定価 **2,640 円** 四六判並製 / 384 頁 ISBN 978-4-7664-2385-3 2016 年 10 月



# 神・自然・人間の時間

古代・中近世のときを見つめて

返品条件付  
注文品

徳永聡子 (慶應義塾大学文学部教授) [編]

🔍 ココに注目！

- ・慶應義塾大学言語文化研究所の研究成果をまとめた論文集。
- ・神、自然、人間の時間把握について問い直す試み。

環地中海世界を中心に、古代から近代への大きな時間幅の中で、人々が、「神の時間」、「自然の時間」、「人間の時間」をそれぞれどのように把握していたのかを問い直す論文集。

税込予価 **3,850 円** A5 判上製 / 240 頁

ISBN 978-4-7664-2954-1 C3010

対象：(哲学あるいは西洋史を専攻する) 研究者

部数：★

配本予定：3 月上旬

📖 類書 アルノ・ポルスト

『中世の時と暦—ヨーロッパ史のなかの時間と数』(八坂書房)



# 犯罪被害者への賠償を どう実現するか (仮)

太田達也 (慶應義塾大学法学部教授) [著]

## 🔍 ココに注目!

- ・犯罪被害者への損害賠償をどう実現するか?
- ・犯罪被害者の損害賠償は国が建て替えるべきなのか?
- ・犯罪とは、更生とは、償いとは何かを問う。

犯罪によって被害者は重大な経済的損害を被り、その影響は人生を大きく狂わす。しかしながら、その賠償責任を負う犯罪者が資力に乏しいことなどから、損害賠償は実現困難なものとして長らく放置されてきた。被害者の置かれている苦境や苦悩を考えると、具体的かつ実効性のある方法を模索することが必要である。現状と真摯に向き合い、犯罪者による被害者への損害賠償はどうあるべきかを様々な側面から問う。

税込予価 **3,520 円** 四六判上製 / 384 頁

ISBN 978-4-7664-2951-0 C0032

対象: 社会問題に関心のある一般読者 /  
刑事法分野の実務家・研究者

部数: ★★★★★

配本予定: 3 月中旬

📖 類書 指宿信ほか編『犯罪被害者と刑事司法』(岩波書店)



# 入門講義 簿記論

友岡賛 (慶應義塾大学商学部教授)・木村太一 (多摩大学経営情報学部専任講師) [著]

## 🔍 ココに注目!

- ・簿記論の基礎知識や考え方をわかりやすく解説する入門テキスト!
- ・具体的な取引についての豊富な設例を通じて、簿記の理論と構造が理解できる。

複式簿記の構造理解に不可欠な内容を厳選し、わかりやすく丁寧に解説。具体的な取引についての豊富な設例から、「それって仕訳はどうなるの?」的思考が身に付く入門テキスト。

税込予価 **2,640 円** A5 判並製 / 168 頁

ISBN 978-4-7664-2947-3 C3034

対象: 大学生

部数: ★★★★★

配本予定: 3 月上旬

📖 類書 吉田康久『簿記会計基礎論』(中央経済社)

保 険

慶應義塾保険学会叢書

# 企業のリスクマネジメントと保険

日本企業を取り巻く環境変化と ERM・保険戦略

柳瀬典由（慶應義塾大学商学部教授）〔編著〕

🔍 ココに注目！

- ・未来を予測することが困難な VUCA 時代のリスクマネジメントと保険の役割を検討。
- ・独自調査に基づく研究から、新たなリスクファイナンス手法を提唱。

グローバル化の進展、ICT の進歩、気候変動など不確実な経営環境のなかで、企業のリスクマネジメントはどうあるべきか？ 最新の理論研究を踏まえ、リスクマネジャーへの独自調査や多彩な事例研究から、新たなリスクファイナンス手法や保険の活用方法を提案する。

税込予価 **2,970 円** A5 判上製／240 頁

ISBN 978-4-7664-2948-0 C3333

対象：企業のリスク管理担当者、損害保険会社社員

部数：★★★

配本予定：3 月中旬

📖 類書 柳瀬典由・石坂元一・山崎尚志

『リスクマネジメント【ベーシック+】』（中央経済社）

経 営

# サステナビリティ時代の会社

21 世紀のコーポレート・エコノミー

谷口和弘（慶應義塾大学商学部教授）・河原茂晴（一橋大学 CFO 教育研究センター特別補佐・KPMG

CFO CLUB 主宰・河原アソシエイツ代表）・高部大問（著述家）〔編著〕

🔍 ココに注目！

- ・持続可能な経営を実現するために検討すべき課題を包括的に論じる。
- ・実際の経営モデルなど、実例を多数掲載。

脱炭素化社会へのシフトが進むなか、企業にとって SDGs、ESG の問題は真剣に取り組むべき課題になった。本書では、著者が長年追求してきた企業のサステナビリティに関する議論を整理しつつ、国・地域・企業・個人のレベルに分け、インタビューを通して実践事例も交えながら、その具体的な道筋を論じる。

税込予価 **2,640 円** 四六判並製／320 頁

ISBN 978-4-7664-2952-7 C3034

対象：経営学を学ぶ学生／SDG'S に関心のある一般読者

部数：★★★★

配本予定：3 月中旬

📖 類書 渡辺林治編著『小売業の実践 SDGs 経営』（慶應義塾大学出版会）

谷口和弘『戦略の実学』（NTT 出版）